

五	三
二	二
一	教
二	番
九	號

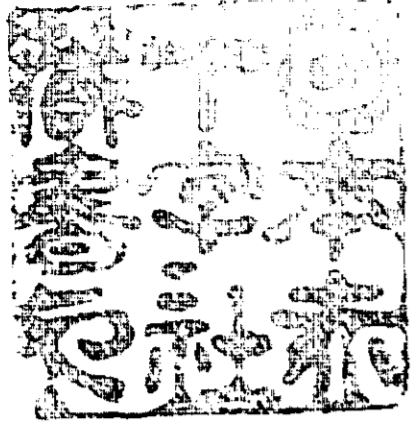
# 大震火災臨時救療誌

財團 恩賜 濟生會

国立保健医療科学院蔵書



\*10012189\*

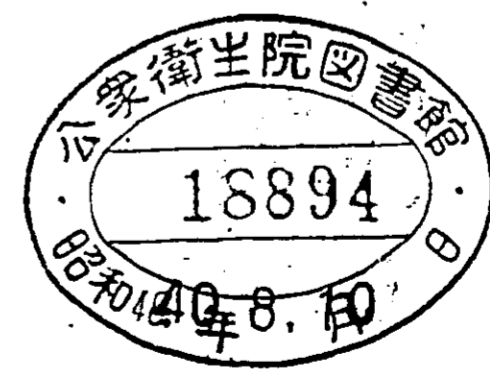
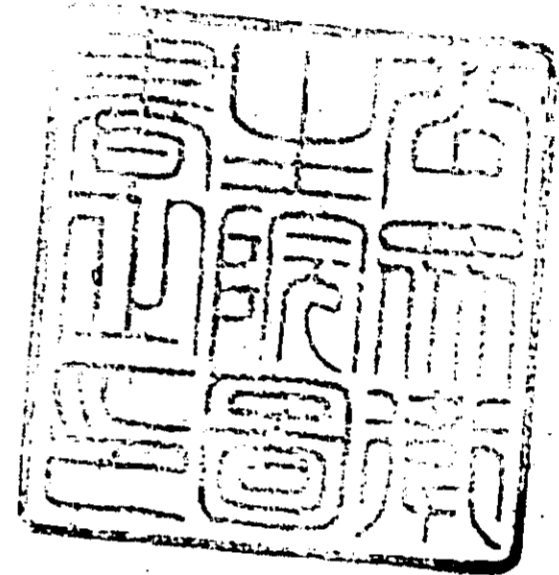


# 大震火災臨時救療誌

財恩賜  
團賜  
濟生會

昭和 40.8.10  
日本赤十字社  
寄贈

HL
48





啓行に院府羽赤時臨會本下陸后皇 日二月十年二十正大  
ふ賜を問恩仰るな油燈上の関巡御を室病各れらせらあ



大正二十九年九月八日 附院宮仁親王殿下合時羽狩院に 附合時羽狩院を臨幸するに際して御座る者皇太子は遊樂御座るに際して御座る



室病築増假院病羽赤時臨



室病核結院病町廻時臨



院病谷下時臨



院病町濃信時臨



臨時野津浴室に於ける初生児の集令





室兒乳院兒乳羽赤時臨



室燥乾院兒乳羽赤時臨



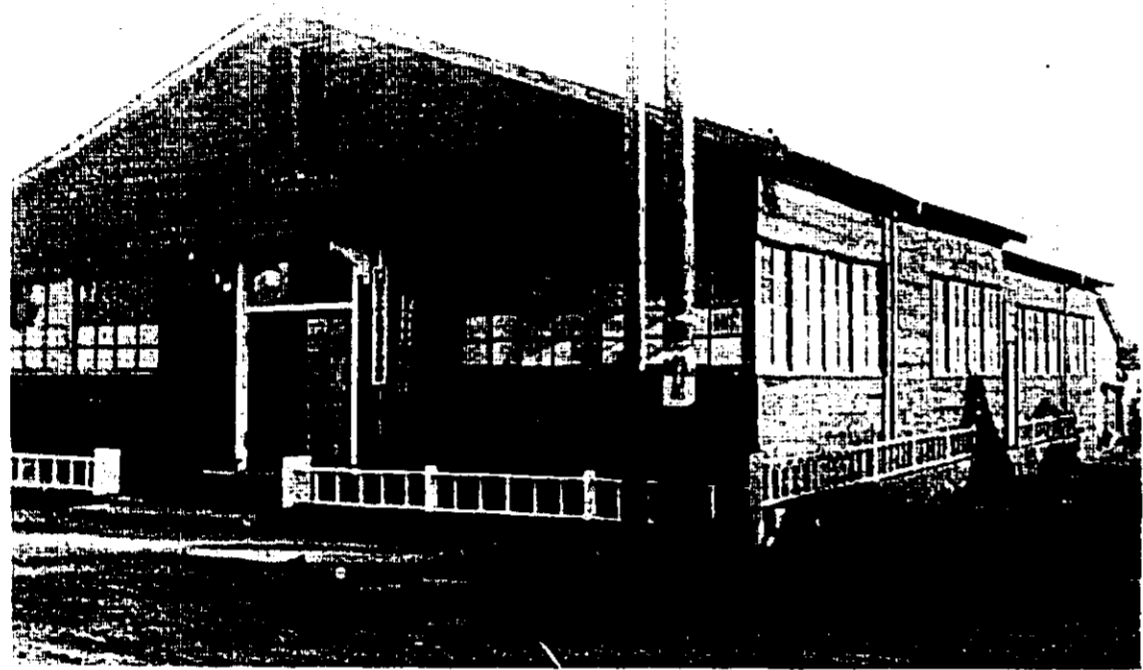
臨 時 演 習 外 科 診 察 室



臨時戶妊產婦保護所



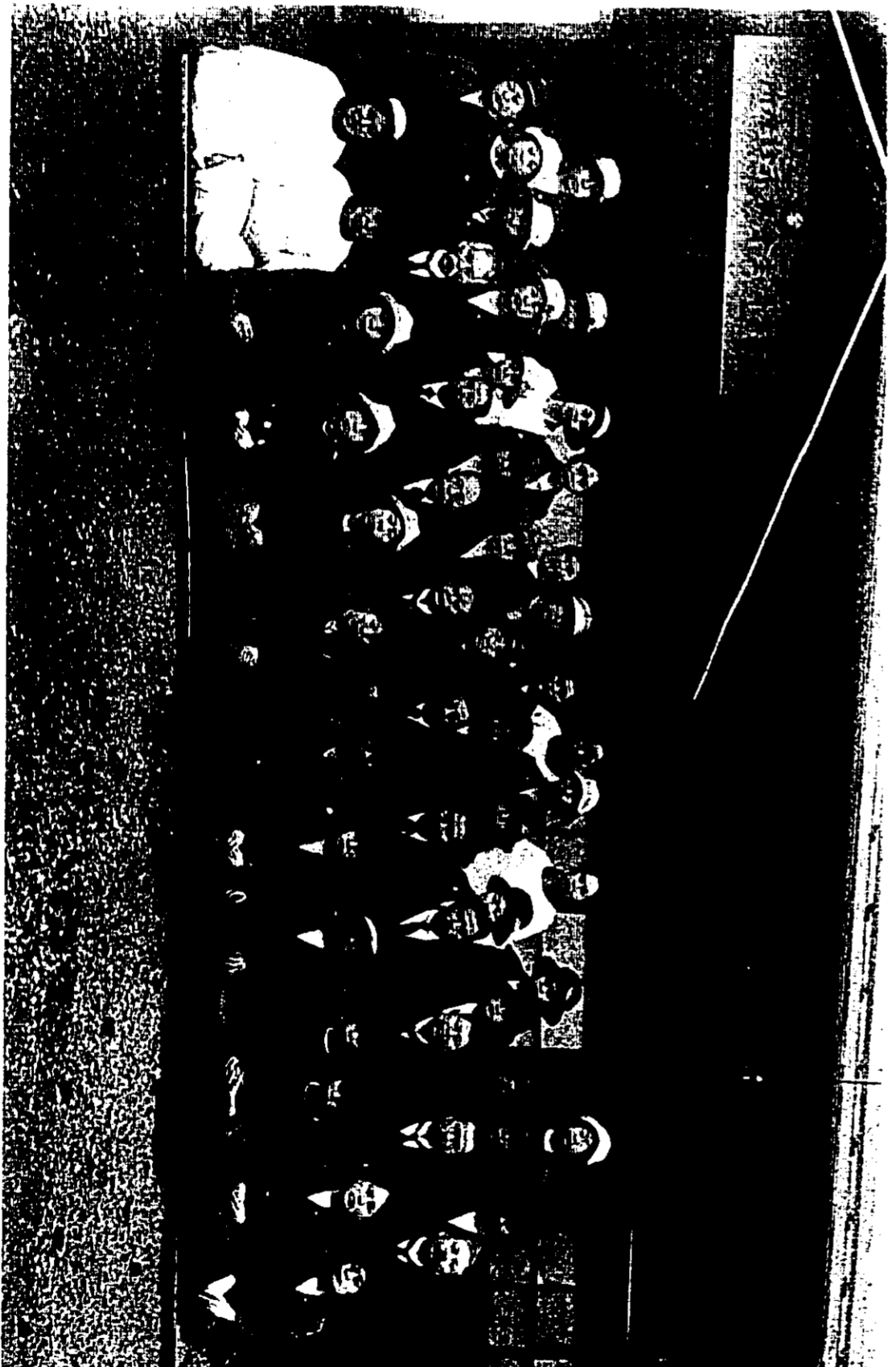
臨時下谷病院藥局



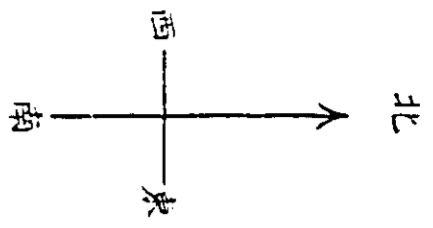
臨時淺草診療所假建築



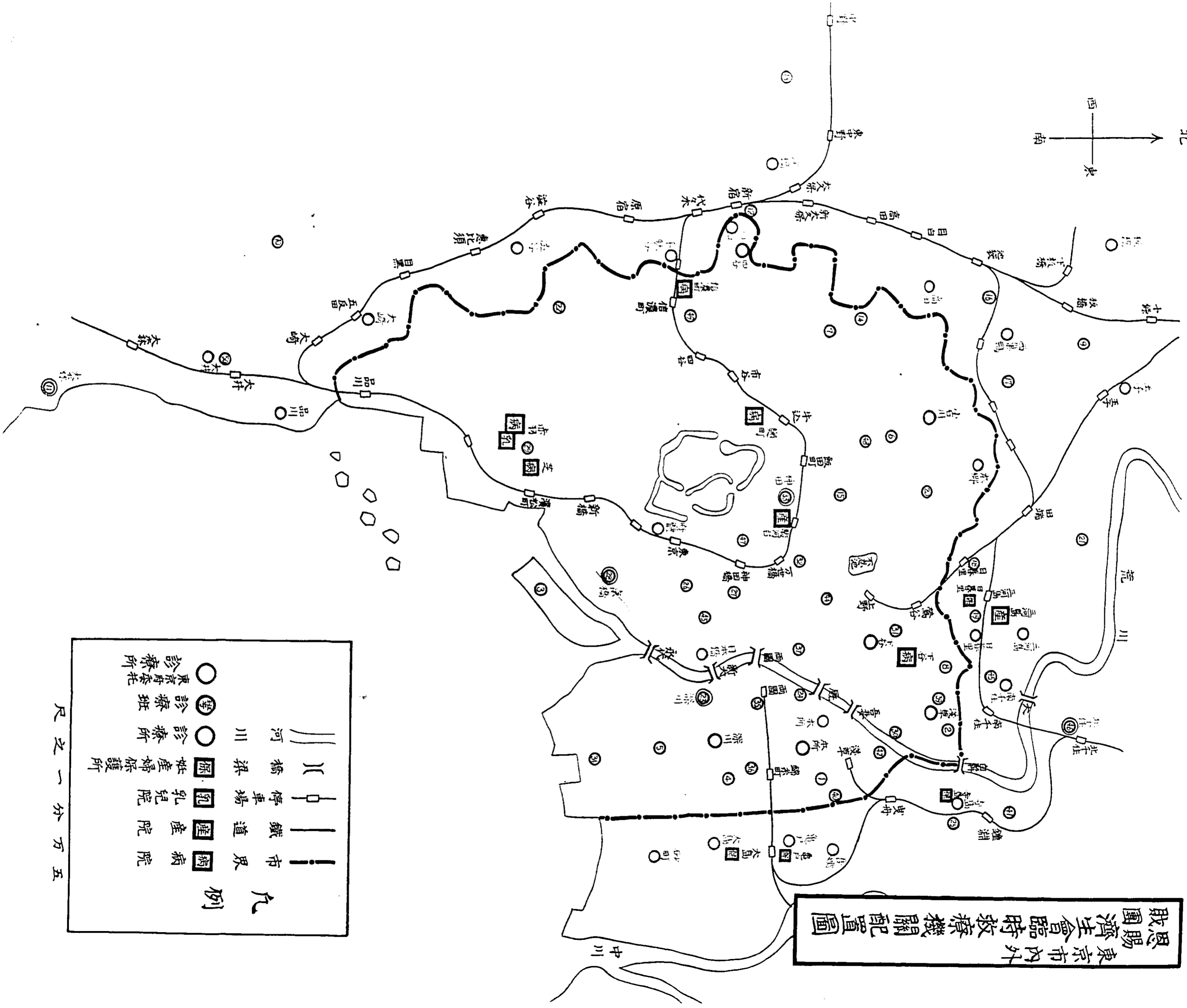
横濱附屬臨時代崎診療班



督督監導指回及員班護看回巡時臨



恩賜東京市内外  
救濟生會臨時救療機關配置圖

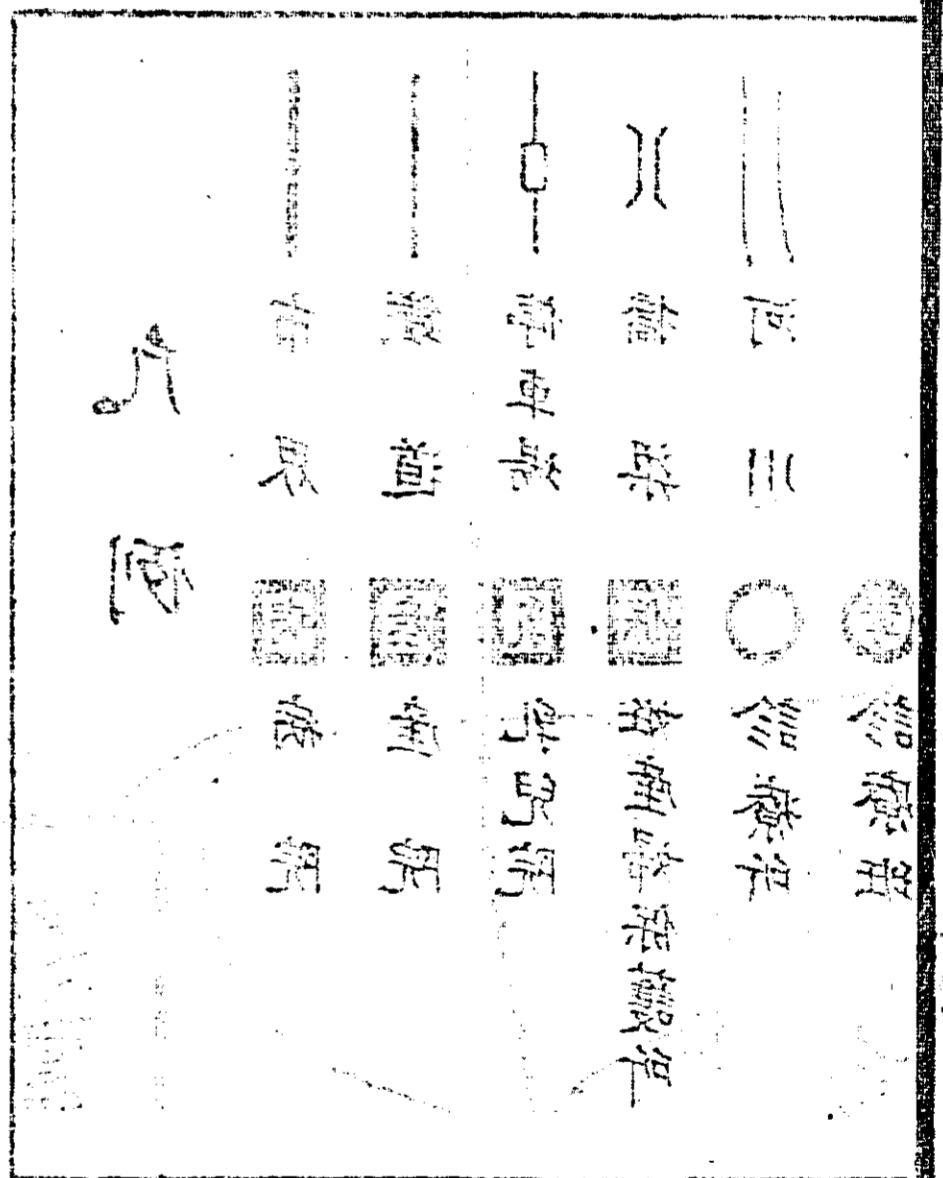


凡例

市界	病院	市界	病院
鐵道	產院	橋梁	產婦保護所
停車場	乳兒院	川	河川
○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○

東京府奉花 診療所  
診療班  
診療所  
產婦保護所  
乳兒院  
產院  
病院

尺之一分万五



只一廿三

詔書

朕神聖ナル祖宗ノ洪範ヲ紹キ光輝アル國史ノ成跡ニ鑑  
 ミ皇考中興ノ宏謨ヲ繼承シテ肯テ愆ヲサラムコトヲ庶  
 幾シ夙夜兢業トシテ治ヲ圖リ幸ニ祖宗ノ神祐ト國民ノ  
 協力トニ賴リ世界空前ノ大戰ニ處シ尙克ク小康ヲ保ツ  
 チ得タリ  
 奚ソ圖ラム九月一日ノ激震ハ事咄嗟ニ起リ其ノ震動極  
 メテ峻烈ニシテ家屋ノ潰倒男女ノ慘死幾萬ナルヲ知ラ  
 ス剩ヘ火災四方ニ起リテ炎燄天ニ冲リ京濱其ノ他ノ市  
 邑一夜ニシテ焦土ト化ス此ノ間交通機關杜絶シ爲ニ流

言飛語盛ニ傳ハリ人心恟々トシテ倍々其ノ慘害ヲ大ナラシム之ヲ安政當時ノ震災ニ較フレハ寧ロ凄愴ナルヲ想知セシム

朕深ク自ラ戒慎シテ已マサルモ惟フニ天災地變ハ人力ヲ以テ豫防シ難ク只速ニ人事ヲ盡シテ民心ヲ安定スルノ一途アルノミ凡ソ非常ノ秋ニ際シテハ非常ノ果斷ナルヘカラス若シ夫レ平時ノ條規ニ膠柱シテ活用スルコトヲ悟ラス緩急其ノ宜ヲ失シテ前後ヲ誤リ或ハ個人若ハ一會社ノ利益保障ノ爲ニ多衆災民ノ安固ヲ脅スカ如キアラハ人心動搖シテ抵止スル所ヲ知ラス朕深ク之ヲ憂惕シ既ニ在朝有司ニ命シ臨機救濟ノ道ヲ講セシメ

先ツ焦眉ノ急ヲ搔フヲ以テ惠撫慈養ノ實ヲ舉ケムト欲ス

抑モ東京ハ帝國ノ首都ニシテ政治經濟ノ樞軸トナリ國民文化ノ源泉トナリテ民衆一般ノ瞻仰スル所ナリ一朝不慮ノ災害ニ罹リテ今ヤ其舊形ヲ留メスト雖依然トシテ我國都タルノ地位ヲ失ハス是ヲ以テ其ノ善後策ハ獨リ舊態ヲ回復スルニ止マラス進テ將來ノ發展ヲ圖リ以テ巷衢ノ面目ヲ新ニセサルヘカラス惟フニ我忠良ナル國民ハ義勇奉公朕ト共ニ其ノ慶ニ賴ラムコトヲ切望スヘシ之ヲ慮リテ朕ハ宰臣ニ命シ速ニ特殊ノ機關ヲ設定シテ帝都復興ノ事ヲ審議調査セシメ其ノ成案ハ或ハ之



ヲ至高顧問ノ府ニ諮ヒ或ハ之ヲ立法ノ府ニ謀リ籌畫經營萬遺算ナキヲ期セムトス  
 在朝有司能ク朕力心ヲ心トシ迅ニ災民ノ救護ニ從事シ嚴ニ流言ヲ禁遏シ民心ヲ安定シ一般國民亦能ク政府ノ施設ヲ翼ケテ奉公ノ誠悃ヲ致シ以テ興國ノ基ヲ固ムヘシ朕前古無比ノ天殃ニ際會シテ郵民ノ心愈々切ニ寢食爲ニ安カラス爾臣民其レ克ク朕力意ヲ體セヨ

御名御璽

攝政名

大正十二年九月十二日

兼	內閣總理大臣	伯爵	山本	權兵衛
外務	大臣	子爵	後藤	新平
內務	大臣		岡野	敬次郎
文部	大臣		財部	
海軍	大臣			彪
陸軍	大臣	男爵	中義	一
農商務	大臣	男爵	田健治	郎
逓信	大臣		犬養	毅
司法	大臣		平沼	騏一郎
鐵道	大臣		山之	内一次
大藏	大臣		井上	準之助

## 凡 例

一、本書は大正十二年九月一日の大震災直後より臨時救療施設終局に至る迄の本會臨時事業の梗概を記述したるものなり唯各編各章の間或は詳細を盡したる部分あり或は簡略に失したるものあり記述自から統一を缺けるものあるは遺憾とする所なるも當時非常の事變に處して全力を救療に傾倒せるの際機關組織の關係上資料の整頓に至つては力之に及び得ざるものありしと編纂亦短時日なりし爲之を悉す能はざりしと由る。

二、序説に於て大震災に於ける世相の一般状態を略叙するに當り或るものは之を説き或るものは之を省きたり例へば罹災者の救護に關しては政府、各官公衙及友僚機關其他の熱誠周到なる施設と更に内外の同情極めて至般なるものありしと雖も之が記述は本書の目的とする所にあらず且つ之を記述するも其の事實を悉す能はざるを以て之を省略することゝしたり。

三、本書の記述中他の圖書、報告等に採りたるものは特に其の出所を記載し尙ほ同

一事項にして數字等區々に亘るものは就中正確と認むべきものを掲載せり。  
 四、本書の編纂に當りては各部病院及診療所等の諸機關より資料の供給を受け救  
 療部囑託松田良樹氏専ら之が整理の任に當り内務省衛生局及本會囑託陸壯三、  
 郎、内務省地方局及本會囑託矢田増治郎兩氏校訂補正の勞を取られたり茲に謹  
 んで關係諸氏の勞を謝す。

大正十三年十一月

財團濟生會

# 大震火災臨時救療誌目次

## 第一編 序 說

關東大震火災被害の概況

- 一、緒言……………一
- 二、罹災世帯同人口の概況……………三
  - 人口移動……………五
  - 要救助人員……………七
  - 失業人員……………八
- 三、罹災者居住の概況……………九
- 四、罹災者衛生の概況……………一一
  - 罹災屍の所置……………一二
  - 罹災傷者の救護……………一二
  - 罹災後發生患者の概況……………一三
  - 傳染病の概況……………一五
  - 精神病の概況……………一六
  - 上下水道の概況……………一八
  - 市民浴場の概況……………一八

五、 醫療機關罹災の概況……………一九

六、 災後に於ける通信交通機關の概況……………二〇

第二編 臨時救療事業總說並中央機關の活動

第一章 罹災時及其直後の狀況……………二五

一、 本會諸機關の罹災……………二五

二、 職員の罹災……………二六

三、 本會地方機關の來援……………二八

四、 災後の小康……………二九

第二章 臨時救療事業の發議及其審議……………三一

一、 臨時役員會（大正十二年九月十三日）……………三一

二、 第二次臨時役員會（大正十二年十月三十一日）……………三六

三、 臨時評議員會（大正十二年十一月十五日）……………四〇

四、 特別委員會（大正十二年十一月十八日）……………四七

五、 第二次臨時評議員會（大正十二年十二月六日）……………四七

第三章 臨時救療施設……………五一

第一節 臨時救濟部の組織……………五一

第二節 診療機關の擴張新設……………五九

第三節 工事……………七三

第四節 職員の補充……………七六

第五節 材料其他の設備……………八〇

第六節 事業周知策……………八二